

令和 6 年度事業計画

公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社（以下、「公社」という。）は、令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間の指定管理業務を行う団体として名古屋市から指定を受けました。4 年目にあたる令和 6 年度は、以下の事業計画と収支予算により、業務を進めてまいります。

1 基本方針

(1) 自然環境の保全及び活用

休暇村は、御嶽山の麓、自然環境に恵まれ、市民生活を支える水源の木曾川上流域に立地しています。この市民の貴重な財産である広大な自然環境の保全と活用を図りながら、市民や地元と協働して事業を進めます。

(2) 自然体験や環境学習主体の事業運営

豊かな自然を活用した体験事業等を通し、市民の心身のリフレッシュや健康増進の支援を行うとともに、青少年の健全育成に寄与します。

(3) 利用促進と効率的な経営

自然体験企画等の充実及び効果的な広報の実施により利用促進に努めるとともに、業務委託の導入等により一層の経費削減を図るとともに、新たな収入の確保策を検討するなどにより、効率的な経営を進めます。

2 事業の実施計画

(1) 公益目的事業

近年、環境に対する関心は非常に高く、が高まり、また余暇に対する考え方や価値観も大きく変化しているなか、公社は、地元王滝村や休暇村の恵まれた自然環境を活用し、休暇村を利用される方々に対して自然体験や環境学習など様々な事業を提供します。

ア 自然体験事業

休暇村敷地内に広葉樹を植樹するなどの森林整備を、地域や下流域の市民と協働で進める「市民の森づくり事業」を実施するとともに、国・長野県の補助事業を活用して設置した「王滝百草の森」の整備を地元王滝村等の協力を得て進めます。また、地元の協力を得て、木曾地方に伝わる食物の収穫体験事業や食育を進めます。

特に「市民の森づくり事業」については、王滝村との協働のもと、下流域の市民の皆様から広く参加者を募って広葉樹の植樹を実施します。

イ 青少年健全育成事業

小・中学生を始め青少年が自然の中での集団生活や自然体験活動を行うことにより、自然環境に対する感動や創造性を育む「豊かな心」を醸成し、生命の大切さや人権の尊重など道徳性の涵養を身につけることを目的とした青少年の健全育成事業を、大学生のボランティア「キャンプカウンセラー」や特定非営利活動法人(NPO)とともに進めます。

ウ 健康増進支援事業

森林浴や高地ウォーキング、温泉療養、薬膳料理の提供など豊かな自然環境を活用したプログラムの提供により市民の健康増進を支援します。

(2) 収益事業

ア 施設貸与及び飲食販売事業等

名古屋市から遠く離れた休暇村で行われる様々な体験活動等に参加するには宿泊が欠かせないため、宿泊に伴う施設貸与や飲食提供を行うとともに土産物等の販売を行います。また、地域と連携して、新たな収入の確保策について検討を進めます。

イ 旅客自動車運送事業

交通アクセスが良くない休暇村利用において、自家用自動車を持たない人や高齢者が体験活動に参加いただけるよう、貸切バスによる名古屋・休暇村間の送迎を行います。

3 事業参加者促進への取組み

(1) 広報・PR

ア 新たな利用者層の獲得に向けて、休暇村の施設、立地条件などの特性を活かしたゼミ合宿やスポーツ・サークル合宿での利用促進に、旅行会社と連携して取り組みます。

イ 2026年に愛知・名古屋で開催予定の「アジア競技大会」及び「アジアパラ競技大会」を見据え、王滝村で競技大会が行われている自転車競技などの競技団体やクラブチームなどに対して合宿や競技大会での利用を働きかけるほか、冬季の利用を拡大するため、スキー連盟などの競技団体などに対して誘致活動を実施します。

ウ リピーター客の増加を図るため、ダイレクトメールを活用したPRのほか、過去に利用実績のある学校や団体・企業などに対して、利用の働きかけを行います。また、スケッチや撮影会等の企画ツアーに参加された方の作品や休暇村に関連した作品をどなたでも出品できる作品展を名古屋市内で開催します。

エ 自然の場を活用したチームビルディング（チームで協力して課題解決に取り

組むことを通じて、協力し合うことへの理解促進及び一体感の醸成や人的ネットワークの形成などを図る)への関心の高まりを踏まえ、各種研修利用の促進を図ります。

オ 名古屋市の協力を得て、名古屋まつりや区民まつりを始め、市内で開催されるイベントに出展参加します。また、名古屋市が行う尾張藩連携事業について、木曾郡内町村と連携してイベントに出展するなどにより、集客向上を図ります。

カ 日本遺産に指定されている木曾地域や王滝村の観光魅力とあわせた集客を図るため、地元町村や観光関連団体等と連携し、愛知県内市町で開催されるイベントに合わせて、観光PRを実施します。

キ 公社の事業取組について、各マスコミへのプレスリリースや広報なごや、旅行誌への事業プランの案内や賛助会員制度等の情報提供などを行うほか、即時伝達性や若年層へのアピールを念頭にSNSの活用やホームページの充実等に努め、利用促進を図ります。

ク 事業案内パンフレットを各区役所・支所の情報コーナーやスポーツセンター、生涯学習センター、図書館、児童館、福社会館といった公共施設等への配架を行うほか、名古屋市内各種団体や旅行会社等に対して訪問営業活動を行います。

(2) 事業の充実等

ア 休暇村の利用促進と公社の財政基盤を強化するため、賛助会員制度の効果的な運用を図り、会員の募集に努めます。

イ 休暇村の宿泊者の満足度向上、及びリピーター客のさらなる増加を図るため、王滝村と長野県立大学が結ぶ包括連携協定に基づく地域振興活動の一環として、長野県立大学と協同し、地元食材を用いた食事メニューの開発を進めます。

ウ 地元の有識者や技術継承者、農林業経験者などの協力を得て、自然環境や文化・歴史等を対象にした体験企画を実施するなど、参加者の満足度を一層高めます。

エ 森林浴や温泉浴、高地効果や転地効果など休暇村の特徴的な立地条件を活用した滞在型の健康増進支援プランを提供します。

オ 貸切バス経営のメリットを生かし、名古屋・休暇村間送迎の体験企画メニューの充実を図ります。

4 利用の環境整備等

- (1) 2026年に愛知・名古屋で開催予定の「アジア競技大会」及び「アジアパラ競技大会」を見据え、競技団体、王滝村や木曾おんたけ観光局など関係機関と協議しながら、ゼミ合宿やスポーツ・サークル合宿、高地トレーニングなどの利用受け入れの環境整備について、合宿料金の設定、合宿向け食事メニューやアスリート

向け食事メニューの提供、近郊のスポーツ公園や練習場所への送迎など、具体的な検討を進めます。

- (2) 高齢者や障害者も安心して自然の中で憩いの時を過ごすことができるよう、遊歩道の整備を始め村内整備を進めます。
- (3) 森林浴や温泉浴による「憩いと癒し」や豊富な自然を利用して非日常を体感し、リフレッシュすることができるよう、設備の保全に努めます。
- (4) 外国人の利用を見据え、館内英語表記を進めます。

5 地域への貢献と連携

名古屋市から離れた地にある休暇村で様々な事業を展開するには、王滝村を始め地元の協力が不可欠であるため、地元で行われる各種行事や奉仕活動への積極的な参加、観光振興イベントへの協力を行うなど、地域との信頼関係の構築に努めます。

- (1) 地域の自然景観、文化・歴史、産業・技術などの資源を活用し、観光による豊かな地域づくりと地域経済の活性化を目的に王滝村や木曾町、木曾おんたけ観光局等が進める「世界水準の滞在型観光地づくり」への協力
- (2) 王滝観光総合事務所やスキー場などが行う観光振興イベントとの連携
- (3) 地域の自然や歴史、文化、産業などの積極的な紹介と体験プログラム等の実施による相互交流
- (4) 地域の環境保全・整備事業及び奉仕活動への参加協力

6 環境保全への取組

市民の貴重な財産である休暇村の広大な自然の保護等環境保全に努めます。

- (1) 長野県林業総合センターや森林管理署などによる技術指導や林業経験者の協力を得て、間伐・植樹・下草刈り・炭焼きなどを行う市民の森づくり事業を実施し、水源涵養や地球温暖化防止（CO2の削減）に努めるとともに、長野県林業大学の協力も得ながら、敷地内の森林環境の整備に努めます。
- (2) 長野県や王滝村、有識者の協力を得て、村内に生息するササユリやラン、クマタカや、昆虫類など希少な生物等の保全活動に取り組めます。
- (3) 生態系に及ぼす影響が懸念されている海洋プラスチックゴミ問題を解決する取組として、レジ袋やストローなどのプラスチック素材からの代替えを進めます。
- (4) 廃棄物の発生抑制（リデュース）とリサイクルを推進します。

7 安全対策

(1) 施設の保全

ア 建物・機械設備等は、保守点検及び法定点検のほか日常点検を欠かさずに行

い、性能の維持管理に努めるとともに利用者の安全確保に努めます。

イ 道路、遊歩道、橋梁、駐車場のほか村内敷地の日常点検を行い、適正かつ安全な状態を維持します。

(2) 事故、災害対策

ア 消防訓練等の実施により、火災等災害の予防、防災意識の高揚及び啓発活動を実施します。

イ 危機管理マニュアルに基づき、事故や盗難、破壊等犯罪の発生の警戒、防止及び日常の保安警備を実施します。

ウ ノロウィルスなどによる感染症や食中毒防止、レジオネラ属菌対策など衛生管理を徹底します。

エ 新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類となったことに伴い、利用者への制限は撤廃しましたが、職員には引き続き検温、消毒液による手指消毒、マスク着用を徹底し、感染防止に努めます。

オ 自動車事故防止のため、車両の日常点検の実施と運行管理者及び整備管理者による安全な運行管理を行います。

カ 熊や猪などの出没が増加している傾向を踏まえ、長野県や王滝村の協力を得ながら、事故の未然防止策を講じます。

(3) 個人情報の保護

公社が保有する情報に対して保護対策が十分か定期的に点検し、適切な保護対策を講じます。

ア 個人情報に対する取扱いや職員の責務についての意識向上を図ります。

イ 個人情報が記載されている文書は、盗難、災害等による情報の漏えい、滅失又は、き損を防止するため厳格な管理をします。

ウ 電子情報に対しては、人的情報保護対策及び技術的情報保護対策を講じ、情報の漏えい、滅失又は、き損を防止するとともに、ネットワークや情報システム、コンピューターへ不正なソフトウェアの侵入、感染又は、不正なアクセス行為を防止するための措置を講じます。

8 職員の資質向上及び職場環境の改善

(1) 市民が自然の中で行う様々な体験活動や森林・温泉などの自然環境を活用した健康増進の支援を行うため、事業に必要な各種資格等の取得に努めるとともに、知識・技術の向上研修を実施します。

(2) 市民生活を支える水源の木曾川上流域に位置する休暇村の自然環境を保護し、活用するため、森林整備や自然環境保全の知識や技術の向上に努めます。

(3) 職員一人ひとりがお客様ファーストの意識を持ち、ご利用いただいたお客様に満足していただくため、接遇の向上を図るとともに、弁護士によるハラスメント

防止研修を実施するなどにより、働きやすい職場環境づくりを目指します。

9 長野県南部で発生した地震及び御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取組

(1) 長野県南部で発生した地震の影響と今後の見通し

平成 29 年 6 月 25 日に発生した木曾町を震源とする地震の被害により、セントラル・ロッジを 3 年間休館しました。令和 5 年度は、個人利用・団体利用とも回復基調となったものの、宿泊者数は令和 4 年度から微増にとどまる見込みです。令和 6 年度以降も、利用者の増加のために様々な営業活動を行い、御嶽山噴火前の平成 25 年度利用実績 20,000 人(セントラル・ロッジ 15,000 人, キャンプ場 5,000 人) を目標に掲げつつ、まずはセントラル・ロッジの利用者を 10,000 人に回復できるよう、取り組んでまいります。

(2) 御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取組

平成 26 年 9 月 27 日に発生した御嶽山噴火の後、王滝口登山道は、御嶽山七合目の田の原天然公園から上部が入山規制されていましたが、現在は、噴火警戒レベルが 1 (活火山であることに留意) となっております。

令和 4 年 8 月には、火山防災の情報発信などを目的として、田の原に長野県立御岳山ビジターセンター「やまテラス王滝」がオープンしたほか、令和 5 年 7 月には、王滝村において、八丁ダルミへのシェルターの整備が行われことを受け、王滝頂上から剣ヶ峰への直登ルートが復旧し、登山客が大幅に増加し、令和 5 年度 7 月・8 月の休暇村宿泊者も、前年度より増加しました。

今後も引き続き御嶽山の状況に注視しながら、状況に応じて、地元自治体や観光関連団体との連携や名古屋市の協力を得ながら、利用者の回復に努めてまいります。

(資料)

令和6年度 公益目的事業（計画）

1 主催事業

主催事業回数 102回 延べ参加人員 11,058人

(1) 自然体験事業

実施回数 26回 延べ参加人員 1,230人

事業名	回数	人員	実施時期
植樹、下草刈りなど水源の森づくり	2	180	9,10月
森林体験学習	2	100	5,11月
自然体験登山・トレッキング	11	380	4～12,3月
星座教室、特別観望会	4	330	5,8～10,12月
農業、里山、山村体験	2	60	9～11月
スケッチ・写真撮影会	5	180	4,5,6,10,3月
合計	26	1,230	

(2) 青少年健全育成事業

実施回数 28回 延べ参加人員 3,040人

事業名	回数	人員	実施時期
こども村キャンプ	18	2,340	7,8月
こども村ネイチャーキャンプ	1	120	9月
親子体験（昆虫採集・標本、森の学校、スターウォッチング）	4	250	7月～10月
こども村スキーツアー	3	270	12,3月
雪の学校	2	60	1,2月
合計	28	3,040	

(3) 健康増進支援事業

実施回数 48回 延べ参加人員 2,888人

事業名	回数	人員	実施時期
健康増進ウォーキング・トレラン教室	34	2,248	4～10月
山菜採り体験	2	80	5,6月
山野草・薬草観察	2	80	5,9月
シニアスキー教室・健康増進スノーウォーキング	10	480	12～3月
合計	48	2,888	

(4) 体験館等の運営

参加人員 3,900人

事業名	人員	実施時期
食の体験館	200	
木工・工芸体験館	100	
天文館	3,000	
クライミング体験	200	
間伐材等を利用した木工体験出前講座	400	
合計	3,900	

2 支援事業

支援事業件数 1,250件 人員 10,600人

事業名	件数	人員	実施時期
野外活動・キャンプ指導・青少年健全育成	100	1,200	6～9月
環境保全・環境学習・体験学習	20	500	通年
登山・カヌー・自転車・ウォーキング・ランニング等スポーツ支援	300	4,000	〃
自然観察（天文・地質・気象）・植物観察	500	3,000	〃
森林浴・健康ウォーク	300	1,500	〃
絵画・写真・地域文化	30	400	〃
合計	1,250	10,600	